

福岡県における巨峰の優良樹と赤熟れ樹のウイルス保毒実態

野口保弘・野田政春・堤 隆文 (福岡県農業総合試験場)

Yasuhiro NOGUCHI, Masaharu NODA and Takafumi TSUTSUMI : Ecological Situation of the Latent Infections Viruses on Excellent or Colourless Grapevine's in Fukuoka Prefecture

ブドウ (巨峰) の赤熟れ症状に関与するとされているフレックウイルスとリーフロールウイルスについて、福岡県内に栽培されている巨峰の着色良好で糖度の高い優良樹と、着色不良の赤熟れ樹での保毒実態を検定したのでその概要を報告する。

1. 調査方法

県内の主な産地に栽培されている巨峰の中で、例年赤熟れ症状を示す樹、及び例年着色のよい優良樹、さらに県等で選抜した優良樹 (着色指数9以上、糖度17以上) を供し、リーフロールウイルスは検定用台木品種LN-33に、フレックウイルスは同じくセントジョージに、1983年5月に各被検樹当たり3~4本を供して緑枝接ぎを行い、フレックウイルスは'84年6月と'85年5月に、リーフロールウイルスは'85年10月に検定植物の発病調査を行った。

2. 結果及び考察

1) 赤熟れ樹における保毒検定の結果 (第1表) リーフロールウイルスによると思われる病徴は調査樹の75%に、フレックウイルスによると思われる病徴はほぼ100%に認められた。

第1表 現地巨峰の赤熟れ樹のウイルス病保毒状況

サンプル採集場所	セントジョージ	LN - 33
浮羽町西隈上	+	+
〃 一の瀬	±	-
〃 朝田原	±	+
黒木町	±	± +

野口, 野田, 堤: 福岡県における巨峰

2) 県の選抜樹以外の優良樹における同様の検定の結果 (第2表) リーフロールウイルスによると思われる病徴は認められなかったが、フレックウイルスによると思われる病徴は40%に認められた。

第2表 現地巨峰の優良樹のウイルス病保毒状況

サンプル採集場所	セントジョージ	LN - 33
浮羽町西隈上	+	-
〃 朝田原	- ± +	-
〃 〃	-	-
杷木町	-	-
黒木町	-	-

野口, 野田, 堤: 福岡県における巨峰

3) 県等で選抜した優良樹を検定した結果 (第3表) リーフロールウイルスによると思われる病徴は認められなかったが、フレックウイルスによると思われる病徴は90%の調査樹に認められた。

第3表 福岡選抜優良樹のウイルス病保毒状況

優良樹 (接木台)	セントジョージ	LN - 33
1: 接木 (5BB)	- ± + +	-
1: 接木 (8B)	±	-
2: 自根	±	-
3: 自根	+	-
4: 接木 (テレキ)	+	-
4: 自根	-	-
5: 接木 (テレキ)	+	-
6: 自根	+	±
7: 接木 (8B)	+	-
9: 自根	+	-
10: 自根	-	-

野口, 野田, 堤: 福岡県における巨峰

4) フレックウイルスの病徴は接ぎ木後1年目から認められたが、リーフロールウイルスの病徴は接ぎ木後2年目に認められた。

5) 九州における巨峰の赤熟れ症状は、果実の着色指数がカラーチャートで5~6以下を指しているが、今回の調査結果 (第4表) では着色指数5~6の場合でも糖度は16.8~19.8度 (Brix) であり、糖度を優良樹と比べれば、肉眼でみた着色の差ほどの大差はないように思われる。

第4表 巨峰の着色程度と糖度 (S57. 9-10)

カラーチャートの指数	調査個数	糖度 (平均)・Brix
1-2	3	12.6-15.8 (14.5)
4-5	5	15.4-16.8 (16.0)
6-7	6	16.0-19.3 (17.4)
8	4	17.0-19.8 (18.4)

野口, 野田, 堤: 福岡県における巨峰

6) リーフロールウイルスの保毒についてはさらに検定に適した Pinot noir による正確な検定が必要である。

7) 検定の結果、県内の巨峰の優良樹も含め、大部分の検定樹にフレックウイルスによると思われる病徴が認められたことから、本ウイルスの果実品質 (着色及び糖度) に及ぼす影響は、今後さらに検討の必要がある。

8) しかし、両ウイルス以外のウイルスが感染している可能性もあり、また重複感染の影響も考えられるため今後さらに検定植物を追加して保毒実態を明らかにし、各ウイルスの果実品質 (着色及び糖度) に及ぼす影響について検討する必要がある。